はじめに

「青い鳥」訳者序

楠山正雄

青空文庫

名だかい「青い鳥」のお芝居を、少年少女の皆さんのためにできるだけやさしく、讀みやすく、物語風に書きやはらげてみました。

「青い鳥」の原作は、六幕十二景といふ長いお芝居で、今から三十年あまり前に、近代のベルギーの大詩人で、モリス・メーテルリンクといふ人が書きました。このお芝居がヨーロッパのどこの國でも大へんな評判になつて、わが國にもつたはつてたび〳〵舞臺で演じられ、すこし大げさにいふと、世界ぢうの劇場の様子が、この芝居一つのおかげできふにかはつたといはれるくらゐでしたし、作者のメーテルリンク氏は、そのごほうびに、ノルウェイ政府からノベル平和賞といふものをもらふことにもなりました。

さて、「青い鳥」が出て十年ののち、「青い鳥」のつづきに、「いひなづけ、又の名青い鳥のえらぶもの」といふ、これも五幕十一景といふお芝居をおなじ作者が書きました。今、この二つの作を一つにつづけて、第一部「幼年の巻」、第二部「少年の巻」として、わたくしはこの物語を書きました。（それを書くについては、メーテルリンク氏の夫人のジョルジェット・ルブランさんの書いた「子供のための青い鳥」、メーテルリンク氏の全作品の專門飜譯家としてきこえたアレグザンダ・デ・マトーズ氏のおなじく「子供のためのチルチル」といふ二つの本がもとになりました。）それは、どちらもチルチル、ミチルの兄妹の物語で、ことに男の主人公のチルチルが、前は十一歳の幼年時代、のちは十七歳の少年時代とわかれて、活躍してゐるからです。

ところで、「青い鳥」のあらすぢをいへば、それは、クリスマスの前の晩に、木こりの子供のチルチル、ミチルが、妖女にたのまれて、「青い鳥」をさがしに、「光」の少女の先導で、「犬」や「猫」や「パン」や、そのほか大勢のお供を連れて、人間の心には感じてはゐても、その肉身の目には見えないでゐる、いはば靈魂のふしぎな國々を旅行してあるくお話です。だから、犬、猿、雉のお供を連れて、金銀、瑠璃、瑪瑙の寶物を求めて鬼ヶ島へ冒險の旅に出る日本の桃太郎の昔話を、平和な心の世界の探檢の、それも子供たちの夢で見るお話にしたやうなものだともいはれませう。つづく「いひなづけ、又の名青い鳥のえらぶもの」の物語も、やはり、少年になつたチルチルが、こんども「光」の案内で、そのうちどれかが未來のお嫁さんになるはずの少女を七人もお供にして、遠い昔の先祖たちや、これから生れて來る子供たちの國をたづねる、これもやはりクリスマスの前の晩の夢物語で、人間の世は自分一代のものではなく、先祖から子孫へと果てしなくつづいてゐるものだから、そのたいせつな血すぢをつなぐ「母」になる人を、自分一人の氣まぐれや好みだけでえらんではならないといふことを作者はここでも話してゐるのです。

さて、「青い鳥」といふのはなんでせうか。「青」は昔から人間だけの持つ靜かな、ふかい心の智慧の色だとしてあります。人間は肉の目だけで物を見てゐると、富だとか、名譽だとか、權力だとか、とかくうはべのはな〳〵〃＼しいことにひかれて、それを世のなかの一ばんの幸福だと思ひたがるものですが、一そう明るい、心の智慧の目があいてゐたら、ほんたうの高い、ふかい幸福は、實はつい手近な自分の身のまはりにあることがわかるだらう、身はまづしく、いやしくとも、人をうらやまずねたまず、つつましい正直な心で世のなかを送る者の家にこそまことの幸福はあるのだ、といふのが作

者の考へです。そこで、「青い鳥」といふのは、さういふ心の智慧だけが感じるごくありふれた毎日の生活の幸福を形にあらはして見せたものだといへます。

もう一つ、この物語の「少年の巻」にも出て來ますが、ぐわんこで意地のわるい「運命」といふものが、人間の一生につきまとつてはなれません。人間の世のなかはちよつと見ると平和のやうで、實は目に見えないさま〳〵〳〵の敵が、たとへば天災だとか、病氣だとか、死だとか、人間同士の、または人間と動物や植物や宇宙の萬物との間の戰爭だとか、人間をすこしの間も靜かにしておかない敵があつて、ゆだんなく人間はこれとたたかつてゆかなければなりません、それを一口にいへば「運命」といふ、やつかいなお供に始終引きずられて行つてゐるやうなものですが、幸ひ人間には高尚な心の智慧といふものがあつて、それによつて胸のなかが光と喜びにあふれるとき、このいんきくさい「運命」をのり越えて精神の自由を得て、國のため、家のため、または自分の一身のためにも、安心してりつぱな行ひや苦しいつとめに、命をゆだねるだけの勇氣をふるひおこす力がそなはつてゐる、だからいい人間になるには、つい目の前にころがつてゐるけば〳〵しい、いやしい、物の慾にとらはれず、だれも心を高く大きく持つて、いはば神樣に近い智慧をやしなふ工夫がなくてはならない——まづかういふのが、すこしむづかしいやうですが、この「青い鳥」の二つの物語を讀めば、しぜんに、おもしろく、わかつてくる作者のをしへです。

メーテルリンク氏は、西暦で一八六二年八月の生れですから、今年はもう八十歳の老人です。ベルギー帝國では第一の國民詩人とたふとばれて、侯爵の位までもらつた人ですが、こんどの大戰で、國をのがれて、外國へ浪々の旅をつづけてゐます。でも、そんな老年になつてさういふ目にあふのは氣の毒だ、といつて同情する人があつたとしても、この老詩人は、にこ〳〵笑つていふでせう、「なあに、青い鳥はどこへ行つても窓の下でうたつてゐますよ。」と。

昭和十六年の紀元節の日

譯者

青空文庫情報

底本：「青い鳥」主婦之友社
1942（昭和17）年3月3日初版発行
1946（昭和21）年1月20日第4刷発行
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
※底本での題名は「はじめに」のみですが、便宜として副題に「「青い鳥」訳者序」を加えました。
入力：門田裕志
校正：大久保ゆう
2004年12月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

はじめに

「青い鳥」訳者序

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　楠山正雄
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/